

# いろは 第4期

住址：台北市敦化南路一段245號11樓  
TEL:02-2741-2116 FAX:02-2731-1757  
http://www.japan-taipei.org.tw  
E-mail:nihongo@mail.japan-taipei.org.tw  
出版者：財團法人交流協會日本語中心  
編纂人：石川清彦、張瓊云  
編印：加威印刷有限公司

交流協會日本語センター 2001年10月20日発行

## 2001年度日本語教育夏期研修会

交流協會日本語センターが主催する2001年度「日本語教育夏期研修会」が7月22日、23日台北で、26日、27日高雄で行われた。講師は鎌田修教授（京都外国語大学）、山内博之助教授（実践女子大学）。

「移行期における日本語の伸ばし方・教え方—初級から中級、中級から上級の場合—」と題して行われた今回の研修会は、定員を上回る参加申し込みがあり、教育現場＝教室に直結するテーマとワークショップ形式の研修会に対し、需要と期待が高いことが示された。

「ことばがデキル」とはどういうことか、学習者にとって「むずかしい」とはどういうことか。「言語遂行能力」「言語活動のプール」「生教材≠生きた教材」といった、新鮮且つ具体的な言葉で、プロフィシエンシー[の観点から日本語能力の定義付けとその向上について説明された鎌田教授。「うまく言えない、できない」といった言語的挫折を教育のチャンスと捉え、会話面の運用能力を高める「タスク先行型ロールプレイ」や、中級からの言語活動のための文法研究の必要性、初級からの会話教育のアイデアを述べられた山内助教授。両講師のユーモアを交えた話しぶりと絶妙のチームワークで、講義からグループ作業、教材づくりといった、盛りだくさんの研修課程が順調に進められた。

## 活発に行われたワークショップ

夏期研修会において各グループに分かれて行われた「教材づくりとその具体的な指導法」では、台湾の日本語学習者が遭遇するであろう言語接触場面を念頭においた教材と指導法が発表された。

日本へ行った学生が遭遇するであろう場面では「救急車を呼び、病状を説明する／献血の順番待ちで血液型による性格の違いについて話し合う／スーパーで初めて見る商品について友人に質問する／美容室で希望の髪型を伝える／ホテルでフロントに苦情の電話をかける」。台湾における日本人との接触場面では、「日本



▲夏期研修会／山内助教授・鎌田教授

の学生を誘う／テーブルに運ばれてきた料理について説明する／日本人に日本の旅行についての情報を聞く／日本人留学生に学生寮の規則を説明する／日本人にタクシーの乗り方を教える／旅行代理店で日本旅行について相談する／道に迷っている日本人に道を教える」。読解や口頭発表を念頭に置いたものとして、「台湾で手に入る日本製品について説明する／日本商品の説明を解説する」。その他にも「ファン代表として日本の有名人にインタビューする／初めて会うメール友達をデートに誘う」といったタスクが、レベル設定、前作業、主作業、後作業と併せて発表され、両講師よりコメントが付け加えられた。今回のタスクや教材づくりの考え方は、今後各々の教育現場で活かされるであろう。

## 2001年度日語教育夏季研習會

由交流協會日本語中心所主辦的2001年度「日語教育夏季研習會」7月22日、23日於台北，26日、27日於高雄舉行。主講人為鎌田修教授（京都外國語大學）及山内博之助教授（實踐女子大學）。此次的研習會是以「變遷期之日語的提昇法以及教學法—從初級到中級、中級到上級的階段—」為題。報名踴躍超出了定額，對於與教育現場（也就是教室）密切相關的主題與分組討論的方式，參加者表現出極高的需求和期待。

何謂「可以用言語表達」，對學習者而言「困難」

又是什麼。鎌田教授以「言語遂行能力」、「語言活動之游泳池論點」、「自然直接之教材≠有效有用之教材」等新鮮且具體的措辭，從熟練的觀點來定義日語的能力與提昇的方法。山內副教授則認為「無法完整的表達、不會」等語言上的挫折是教學的一大契機，另外也說明提高會話運用能力的「課題先行型實習訓練法」、中級以上語言活動之文法研究的必要性、以及初級以上會話教學的構思。授課、小組作業、教材製作等豐富的研習課程，就在兩位講師幽默的言談和氣氛融洽的小組合作下順利的進行。

### 熱烈的分組討論

在暑期研習會之分組進行的「教材製作與具體的指導方法」中，針對台灣日語學習者可能遇到的語言接觸情況，發表其教材和指導方法。

## 特別研修會

### 「聞き取り指導のメカニズム」

8月21日(火)、日本語センターにて、土岐哲教授(大阪大学大学院)を講師に迎え「聞き取り指導のメカニズム」というテーマで研修会が行われた。

従来の聞き取りの指導では、音声をくり返し聞かせ、学生が聞き取れない場合などにはテープレコーダーの音量を上げたり、ゆっくり発音して聞かせることを考えがちであった。しかし、例えば地下鉄車内の騒音の中でも会話が可能なように、日常我々は「常識」や「経験」など音声以外の様々な要素を活用して会話を成立させている。研修会では、いくつもの実例を検証しながら、会話や聞き取りを成立させている要素について、参加者とともに考える形で講義が進められた。そして聴解能力向上のためには、聞き取りの要素を活用させ、学習者に自信を持たせる指導法が効果的であるという提案がなされた。また、実際にVTRを用いた聞き取りの指導例も紹介された。参加者の関心も高く、研修後のアンケートでは「聞き取り指導のポイントが分かった」「聞き取りの授業に必要な条件、指導方向などを理論的に理解できた」などの感想が寄せられた。



到日本的學生可能遇到的情況，有「叫救護車、說明病情／等捐血時，依血型之不同討論其性格的差異／向朋友詢問在超市第一次看到的商品／在美容院說出想要的髮型／在旅館打電話向櫃臺抱怨」。與在台灣的日本人接觸之情況，有「邀請日本學生／說明餐桌上的料理／向日本人詢問日本旅遊資訊／向日本留學生說明學生宿舍的規則／教日本人搭乘計程車／在旅行社討論日本旅遊／教迷路的日本人認路」。以閱讀測驗或口頭發表為主的有「說明在台灣買到的日本商品／了解日本商品的說明」，其他還有如「以仰慕者訪問日本的名人／約未曾謀面的網友」等等的課題、連同等級設定、前置作業、主要作業、後續作業一起進行發表，再由兩位講師予以評論。此次課題或教材製作的想法或許都可以利用於今後的教學上。



▲特別研修會／土岐教授

### 特別研習會「聽力指導的組織架構」

8月15日(二)、土岐哲教授(大阪大學研究所)蒞臨日本語中心，以「聽力指導的組織架構」為題，進行研習會。

傳統的聽力指導，往往是讓學生重複的聽取，而於學生聽不懂時就偏向於採用調大音量，或是慢慢的唸給學生聽的方法。但是由身處於地下鐵車內的噪音中，其對話也可成立的情況看來，活用日常生活中我們所認知之「常識」或「經驗」等音聲以外的各種要素，其會話也可成立。研修會是以配合實例之驗證，與參加者共同思考使會話或是聽力能成立之要素的方式來進行。而為提昇聽解能力，提出活用聽力要素，使學習者增加信心的有效指導法。另外，也利用VTR介紹聽力指導的例子。參加者抱持高度之興趣，在研習後的問卷調查中，寫下「領悟到聽力指導的要點」、「理論性的了解聽力課必要的條件、指導方向」等等的感想。

## 第一回「伊沢修二と日本語教育のはじまり」

(財)交流協会日本語教育専門家 藤井彰二

明治28年(1895)7月、台北郊外で、世界初の本格的な「日本語教育」が始められた。その創始者は伊沢修二。日本では、音楽教育、体操教育などの基礎を築いたことでその名が知られている。伊沢は、下関条約により日本の領土になった台湾の総督府学務部長心得として、優秀な教師を率い、渡台した。学務部が置かれたのは、かつて、士林街の人が学堂を開いて子弟を教えた所でもある芝山巖。伊沢は早速、通訳を使って、生徒集めに取りかかり、6人の青年が最初の日本語の授業を受けることになった。当時の授業の様子について、伊沢はこう語る。「教科書もなく、教授法もないのだから、研究と応用とが混合していた。教えながら教授法を研究し、いくらかでもよいと思われるところがあれば、なお一步を進めて研究するというありさまであった。また、教科書編さんと教科書使用とは同時で、編さんしては教え、教えては編さんするというありさまであった。」

最初の生徒がだんだん日本語が話せるようになると、日給を与えて臨時雇いにし、さらに第二期生8名を入れた。その後も次第に入学者は増え、8月末には生徒数は20名以上になった。伊沢は、年長で漢文の力がある者には書記の任務を与え、年少者には将来小学校の教師として日本語を教えることができるように、その養成に努力した。こうして教育事業はだんだん盛大になり、事務所と校舎を増築するほどになった。

10月末、伊沢はいったん帰京する。東京にいる間に、台湾人を教育するための人材を養成することと、台湾教育経営の方針についての案を練り、それがほぼでき上がり、新年早々台湾に渡ってその実行に着手しようとしていた。ところが明治29年(1896)1月3日、思いもよらない知らせが彼のもとに届いたのである。「芝山巖事件」である。

## 第一章「伊沢修二と日本語教育の開始」

明治28年(1895)7月、世界最早且正式的「日本語教育」開使於台湾台北近郊。其創始者は伊沢修二先生。在日本、伊沢先生於奠定音楽教育與體操教育等基礎上也具知名度。台湾於馬關條約割讓日本後、伊沢先生以代



▲高遠町図書館「伊沢修二 その生涯と業績」より

務部把教學場所設在芝山巖，此地點也是當時士林的人們開設學堂教導學童的地方。伊澤先生到了之後，藉由翻譯人員，迅速展開招募學生的工作，當時有6名台灣青年接受招募而成為日語教育最早的學生。伊澤先生描述當時情形時說道「當時在沒有教科書也沒有教授法的情況下，理論與應用不得不混和一起使用。一邊教學一邊研究教授法，若有想到什麼新構想就再進一步研究。而在教科書編纂與使用方面，幾乎都是同時進行。編後即教，教後即編。」

當這些早期的學生能開始講日語後，伊澤先生雇用他們並付給他們薪水，然後再繼續招募8名第二期學生。之後入學者漸增，8月底已有20名以上的學生。伊澤先生對較年長且會漢字的學生給予他們文書的工作，較年少者則培養他們成為將來在小學能教授日語的教師。此後，隨著教育事業的蒸蒸日上，事務所及校舎也陸續增建不少。

10月底，伊澤先生返回日本後，在東京開始著手進行培養教育台灣人的教師人才及台灣教育經營方針等方案。當這些方案即將完成且伊澤先生欲再度前往台灣時，卻於明治29年(1896)1月3日聽到了意想不到的事情。那就是芝山巖事件。

「日本語と台湾」は引き続き連載いたします。ご意見ご感想をお寄せください。

## 台灣應用日語学会(仮称)設立の動き

近年、台湾では日本語学習熱が起こって日本語教育機関も飛躍的に増え、南部地域においても大学・学院などに日本語科・応用日本語学科などの設立が相次いでおり、これらの教育機関で教鞭をとる教師・研究者も年々増加している。しかし、日本語教育の歴史の浅い南部地域においては、これらの教育機関で教鞭をとる日本語教師・研究者の団体としては教師の親睦を目的とする台湾南部日本語教師会があるのみで、アカデミックな学術交流を目的とする「学会」が存在しないため、研究者レベルの交流は低調であり、南部中心の学会設立を望む声が高まりつつあった。

このような現状から、国立高雄第一科技大学の林水福教授・張瑞雄助教授が呼び掛け人となり、交流協会高雄事務所が協力する形で、9月10日、南部地域の大学等14の日本語教育機関関係者が交流協会高雄事務所に集まり、来年1月～2月を目処に南部地域に本部を置く「台湾應用日語学会(仮称)」を設立することで合意に至った。

「応用日語学会」としたのは、近年「応用日語学科」として新設される学科が多いことに鑑み、新学会が日本語・日本語教育研究のみならず、日本語の実社会での応用面の研究、さらには日本の政治・経済・文化等の研究にまで門戸を広げ、「応用日語学」という新たなカテゴリーの確立をめざすことを表している。また本部は南部地域に置くが、南部地域のローカル団体ではなく全国組織であることを目指し、北部地域の研究者の参加も積極的に働きかける。

交流協会としても、台湾における日本語研究・日本語教育研究・日本研究の活性化につながる今回の学会設立の動きを歓迎し、直接・間接の可能な限りの支援をしたいと考えている。

この新学会に関する問い合わせ等は下記まで。

国立高雄第一科技大学 張瑞雄助教授

07-601-1000(5000,5019)

交流協会高雄事務所 藤井 智

07-771-4008

## 台灣應用日語學會(暫稱)設立之前置作業

近年來、台灣掀起了一股學習日語的熱潮，日語教育機構快速地增加，南部地區之大學、學院也相繼設立日語系或是應用日語系，而在這些教育機關中職

教鞭的教師以及研究者也日益增多。可是，在日語教育歷史尚淺的南部地區，其教育機關中裡任教的日語教師及研究者之聚會，就只有以教師交流為目的的台灣南部日語教師會，因為以學術性之學術交流為目的的「學會」尚未成立，以至於研究者程度的交流並不熱烈，所以於南部設立學會的呼聲越來越高。

針對此一狀況，以國立高雄第一科技大學的林水福教授與張瑞雄副教授為召集人，交流協會高雄事務所為協力單位，9月10日南部地區大學的14位日語教育機關的相關者，於交流協會高雄事務所，達成希望於明年的1月～2月成立本部設於南部地區的「台灣應用日語學會(暫稱)」的決議。

因近年來新設立之「應用日語系」較多，故以「應用日語學會」為名。新學會之研究不止於日語、日語教育，也對於日語實際生活之應用，甚至於日本的政治、經濟、文化等方面加以討論，研究層面廣泛，表示以「應用日語學」新範疇的確立為目標。另外本部雖設立於南部地區，但不僅是為南部地域性之團體，更祈成為全國性之組織，所以也積極邀請北部地區之研究者參加。

交流協會方面，對於與日語研究、日語教育研究、日本研究活性化等相關連之本學會設立的前置作業，表示相當歡迎，考慮於儘可能之範圍內給予直接或間接的幫助。

關於新學會之有關事項請洽：

國立高雄第一科技大學 張瑞雄副教授

07-601-1000(5000,5019)

交流協會高雄事務所 藤井 智

07-771-4008



▲台灣南部日本語教師會定例会

### 第34回台湾南部日本語教師会定例会

9月29日、国立成功大学において第34回台湾南部日本語教師会定例会「台湾の日本語教育の課題」が開催された。今回は本年7月30日から8月18日まで杏林大学（日本）にて行われた財団法人交流協会主催「台湾人日本語教師本邦研修」に南部を代表して参加した7名（王淑芬〔大仁技術学院〕・楊鳳慈〔興國管理學院〕・蔡錦雀〔南台科技大学〕・蔡明興〔国立屏東商業技術學院〕・陳采玉〔高苑技術學院〕・畢復芸〔立德管理學院〕・蘇俊斌〔致遠管理學院〕）による上記研修中の討論会（「台湾新設日本語学科における日本語教育の課題」）の報告が行われた。

その後、教師・学生・教材・カリキュラム・設備・国際交流に関する現状や問題点について発表が行われ、それぞれの学校での取り組みや、その解決策など座談会形式で意見交換が行われた。当日は、「南部教師会」定例会であるにもかかわらず、台北、台中などからの参加者もあり、リラックスした雰囲気の中で活発な議論がなされた。

例会を終了するにあたり、南部教師会会長の黄英甫氏は、「南部教師会」は、学術的な発表の場としての「応用日本語学会」とは異なり、日本語教師のブラッシュアップ、または教師間のネットワーク構築の場として活用して欲しいと、今後の活動にも意欲的であった。

### 第34屆台灣南部日語教師會例會

9月29日、以「台灣日語教育之課題」為主題之第34屆台灣南部日語教師會例會，於國立成功大學舉行。此次例會由參加財團法人交流協會所主辦之「台灣日語教師日本研習」，於今年7月30日至8月18日在杏林大學進行研習的南部代表7人（王淑芬〔大仁技術學院〕、楊鳳慈〔興國管理學院〕、蔡錦雀〔南台科技大學〕、蔡明興〔國立屏東商業技術學院〕、陳采玉〔高苑技術學院〕、畢復芸〔立德管理學院〕、蘇俊斌〔致遠管理學院〕），進行研習會中之討論會（「台灣新設日語系之日語教育課題」）的報告。

報告之後，即針對有關教師、學生、教材、課程、設備、國際交流的現狀或問題點進行發表，並就各學校的配合措施或解決方法，以例會的方式交換意見。當天不止是「南部教師會」之成員，也有來自臺北、台中等地的參加者，在輕鬆的氣氛中進行熱烈的討論。

在例會即將結束時，南部教師會會長黃英甫先生指出「南部教師會」和以學術發表為主的「應用日本語學會」不同，希望南部教師會能成為提昇日語教師自我能力或者是促成教師間之交流的地方，對於今後之活動也會積極推展。

### 交流協會獎學金留學生試驗

日本の国立大学大学院に進学する学生を対象とした、交流協会奨学金留学生試験二次試験が10月6日（土）、交流協会台北事務所で行われた。8月5日（日）に教育部によって実施された一次試験には、昨年を大きく上回る772名が受験した。難関を突破し二次試験に参加した受験者は、研究についての面接や小論文等の試験に臨んだ。

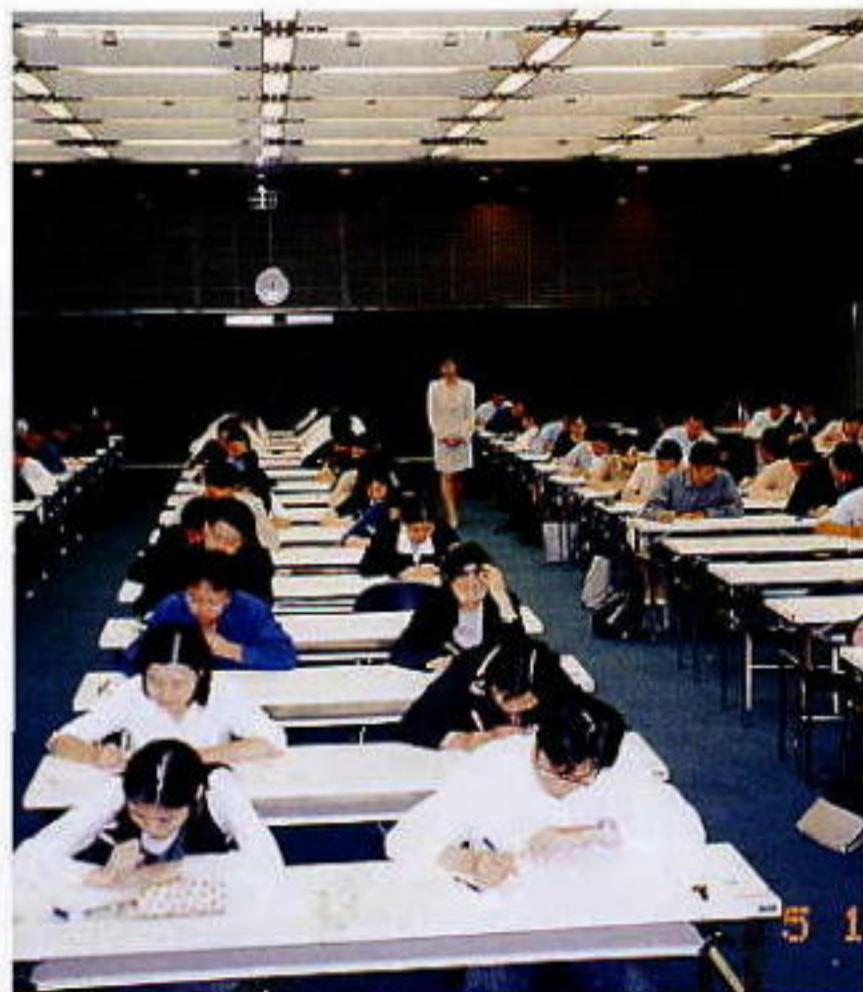
合格者の発表は10月31日に予定されている。交流協会（10階）に掲示されるほか、交流協会ホームページにも掲載される。

<http://www.japan-taipei.org.tw>

### 交流協會獎學金留學生考試

以進入日本國立大學研究所就讀之學生為對象的交流協會獎學金留學生考試，其複試10月6日（六）於交流協會台北事務所舉行。報考8月5日由教育部所舉行的初試人數有772名，比去年大幅增加。通過初試的考生，進行關於專攻方面的面試以及作文等複試。

合格者預定於10月31日發表。除張貼於交流協會十樓外，也刊載於交流協會的網頁上。



▲交流協會獎學金留學生試驗二次試驗

## 日本語補習班小学生クラス

両親のどちらかが日本人で、台湾の小学校に通う児童は少なくない。しかし、こうした児童が日本語を学ぶ機会は限られている。台湾人と結婚し、台北市及びその近郊に在住する母親が中心となり、今年の1月より日本語補習班小学生クラスが、2月より幼児クラスが運営されている。教師は母親が交代で務め、1か月に3、4回、日本の教科書、歌、朗読鑑賞、ゲーム、劇など、様々な手法で子どもたちの日本語能力の向上を図っている。

将来の日本と台湾の架け橋の役割を担うであろう期待だけではなく、日本の親族とのコミュニケーションなど、児童たちの日本語学習の必要性は高い。年少者に対する日本語教育は研究が進みつつあるが、パイリンガル研究も含め、日本語と中国語を対象とした事例は少ないのが実状であり、母親たちは運営、教育の両面で奮闘しているといえる。このクラスに関する問い合わせは下記まで。

代表＝及川朋子 e-mail : anlte2@yahoo.co.jp  
FAX : 02-2729-0530

## 小學生的日語補習班

父母親其中一人為日本人，而就讀台灣小學的兒童為數不少。但是，這樣的小孩學習日語的機會卻相當的有限。以和台灣人結婚，而居住在台北市或台北郊區的母親為中心，從今年一月開始成立了小學生日語補習班，二月開始則成立了幼兒班。老師是由媽媽們輪流擔任，一個月三至四次，藉由日本的教科書、歌曲、朗讀欣賞、遊戲、戲劇等各種方法，希望能提昇兒童們的日語能力。

不只於期望他們將來能扮演日本和台灣之間的橋梁，從和日本親戚溝通等方面來看，兒童們學習日語的必要性確實相當的高。雖然，對青少年之日語教育研究不斷地在推動，但是包括雙語研究，以日語和中文為對象的研究相當少，卻是不爭的事實。媽媽們可以說是在運籌和教學兩方面同時奮戰。有關這個課程的詢問處如下。

及川 (oikawa) e-mail : anlte2@yahoo.co.jp  
FAX : 02-2729-0530



▲日本語補習班小学生クラス

## 2001年日本留学フェア

9月22日(土) 23日(日)、台北市信義区の紐約・紐約展覽購物中心5階にて、日本の52大学が参加した(財)日本国際教育協会主催「2001年日本留学フェア」が行われた。

台風17号により、会場も大きな被害を受け、最寄りの地下鉄も、復旧のめどが立たない状況で行われたが、来場者数は2日間で2048名と昨年を大きく上回った。各大学は資料の展示や配布の他に、個別面談にも応じ、各ブースでは留学希望者の熱心な質問、相談が行われた。

## 2001年日本留學展

9月22日(六)、23日(日)、於台北市信義區的紐約・紐約展覽購物中心五樓，舉行了有52所日本大學參加，(財)日本國際教育協會所主辦的「2001年日本留學展」。

留學展雖然會場因納莉颱風的影響，受到嚴重的損害，而捷運也在停駛的狀況下舉行，但是兩天來共有2048人參加，比去年增加許多。會場中各大學除了學校介紹及簡章的索取外，也提供諮詢，只見對於留學有興趣的人，於各大學的攤位上熱心的發問與討論。

## 成長中等学校日本語教育学会 年度大会

8月19日(日) 台中の明台家事商業學校において、成長中等学校日本語教育学会の年度大会が開催された。この学会は、中等教育機関の日本語教師を中心に1997年(民国86年)8月に設立されたもので、今年で5年目を迎え、現在台湾全域に約30名の会員を有している。

当学会では、情報交換をはじめ、教師の相互研修や教材づくりなど、さまざまな活動を行っており、当日は、会の活動や各学校の現状について、討論や報告が行われた。

## 成長中等學校日語教育學會 年度大會

8月19日(日)、於台中的明台家事商業學校舉行了成長中學日語教育學會的年度大會。此學會是以中等教育機關的日語教師為中心，於1997年(民國86年)年8月成立，迄今已邁入第五年，現在於全省有30名的會員。

教育學會除意見之交流外，也舉辦教師研習或是教材製作等各式各樣的活動。於當天，對於教育學會的活動和各校的情況，進行了討論及報告。

**高中高職****スピーチ・コンテスト**

11月3日（土）東呉大学外雙溪校区傅賢堂において「第三回全国高中高職日語演講比賽」が行われます。開演は午後1時、観覧自由。台湾の中等教育における日本語教育の成果が窺える大会です。

お問い合わせは下記まで。  
東呉大学日文系 黄助教  
Tel: 02-2881-9417 (内線6524)  
Fax: 02-2883-6055  
e-mail:  
japanese@mail.scu.edu.tw

**日本語教育学会大会**

11月10日（土）台湾大学応用力学館国際会議廳にて、台湾日本語教育学会主催「二十一世紀の日本研究」国際会議が行われます。坂原茂教授（東京大学）、工藤真由美教授（大阪大学大学院）、日野龍夫教授（京都大学）、田中隆昭教授（早稲田大学）、鮎澤孝子教授（東京外国語大学）、Kaiser, Stefan教授（筑波大学）による講演、台湾の日本語学科等の主任による座談会、学会員による発表が行われる予定です。

**日本語文学会大会**

日本語文学会の年度大会が11月17日（土）台北YMCA城中会所で行われます。当日は岡崎敏雄教授（筑波大学）富田隆行

教授（亜細亜大学）の講演及び会員の研究発表が予定されています。

なお、12月15日（土）には蔡茂豊教授（東呉大学）、陳伯陶教授（文化大学・淡江大学名誉教授）による特別講演会が行われる予定です。

**全国高等教育機関****スピーチ・コンテスト**

12月7日（金）台湾大学応用力学館国際会議廳において「九十学年度全国大專校院日語演講決賽」が行われます。日本語専攻組（午前）、非日本語専攻組（午後）に分かれて行われる、各高等教育機関の代表による大会です。当大会に関するお問い合わせは下記まで。

語言訓練測驗中心日語演講比賽執行小組  
Tel: 02-2362-6385 (内線225,226)  
e-mail: ps@lttc.nth.edu.tw

**日本アジア航空杯(南部)  
スピーチ・コンテスト**

11月24日（土）、高雄漢來大飯店において、日本アジア航空主催の第十一回日本語スピーチコンテストが開催されます。参加資格は台中以南の四年制公私立大学1～3年、五年制専科学校3～4年、三年制専科学校1～2年在学生。問い合わせは Tel: 07-236-4197 日亜航空総務部 劉小姐まで。

**日本アジア航空杯(北部)  
スピーチ・コンテスト**

12月16日（日）台北來來大飯店17階会員クラブ億瑞廳において「第十八屆日本亜細亜航空盃日語演講比賽」が行われます。出場者の締め切りは10月31日（消印有効）参加資格申し込み方法等のお問い合わせは  
Tel: 02-2776-8232  
日亜航空公共關係部まで。

**東海大学国際会議**

2002年1月29日（土）20日（日）、東海大学（台中市中港三段181號）において、国際シンポジウム「大学教育の目標と日本語教育」が行われます。詳細及びお問い合わせは、東海大学日本語文学系まで。  
Tel: 04-2359-4829 (内線502)  
Fax: 04-2359-0258



## 日本語センター開館予定

日本語センター（台北市復興南路二段200號12階）の開館日は、  
火曜日・金曜日＝14:00～17:00

土曜日＝10:00～17:00

となっておりますが、以下の日は開館いたしませんので予めご了承ください。

11月10日（土）、11月17日（土）

11月23日（金）、12月28日（金）

12月29日（土）、1月1日（火）

1月4日（金）

なお、貸し出し図書の返却日が閉館日と重なる場合は、翌週の同曜日が返却日となります。

また、やむを得ない事情で開館できない場合がありますので、交流協会ホームページ等でご確認くださいませようお願いいたします。

## 中等教育（高中・高職） 日本語教師研修会

日本語センター主催で行う中等教育機関で日本語を教える教師のための研修会は、10月13日に第一回「日本語らしい日本語の音声教育」（講師＝陳永基・東呉大学）が行われました。定員を上回る参加申し込みが

あり、参加いただけなかった皆様には、お詫び申し上げます。なお、今後の開催予定は以下の通りです。

11月10日（土）14:00～17:00

講師＝工藤節子（東海大学）

テーマ＝教材を作る視点－作ってみよう、オリジナル教材－

12月1日（土）14:00～17:00

講師＝緒方智幸（東海大学）

テーマ＝楽しく日本語を学ぶ教室活動－多人数教室を想定した個人別会話練習の実践－

1月5日（土）14:00～17:00

講師＝林長河（銘伝大学）

テーマ＝魅力的な日本語教育を目指すコースデザイン

## 日本語教育冬期研修会

1月22日より30日まで、台北、台中及び高雄で、冬期研修会を行う予定です。今回のテーマは「円滑なコミュニケーションのための日本語教育：ポライトネス、待遇表現の観点から（仮）」、講師には宇佐美まゆみ助教授（東京外国語大学）、川口義一教授（早稲田大学）。敬意表現の指導だけでなく、「ポライトネス」についての考え方、教科書での

扱われ方などについて、講義とグループ作業を通して考えていく研修会です。

参加申し込み等に関する詳細は、決まり次第、各教育機関等に案内状を送付いたします。

## 成長中等学校日本語教育 学会会員募集

本学会は創立五年目に入りましたが、中等学校の日本語教育の向上を目指し、さまざまな活動を行っています。関心をお持ちの方は、各地域の責任者までお問い合わせください。

北一区：黄太華（03-520-7095）

北二区：范清美（03-493-7376）

中区：韓世卿（049-2358-396）

南区：郭徳信（07-721-6705）

東区：李怡靚（038-358-623）



## 情報をお寄せください

台湾の日本語教育に関する情報を募集しております。また、本誌「いろは」に対するご意見やご要望もお待ちしております。詳細は日本語センター事務局までお問い合わせください。

Tel: 02-2741-2116 Fax: 02-2731-1757

E-mail: nihongo@mail.japan-taipei.org.tw

ホームページ: http://www.japan-taipei.org.tw

## 「いろは」10月20日号 目次

日本語センター活動報告	1,2
日本語と台湾	3
台湾南部の日本語教育情報	4,5
台湾 日本語教育ニュース	5,6
台湾 日本語教育関連情報	7,8